

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第67回

トチ



セイヨウトチノキ(マロニエ)はトチノキ科の落葉高木です。

ヨーロッパでは並木としてよく見られる樹種です。4月頃穂状に白い花弁に赤い雄しべをつけた花を開きます。果実が徐々に大きくなり、秋には卓球の球程になり熟すと一部割れ目が出て、種子は球形で栗の実に似ています。種子は医薬品として血流を改善し下肢血管障害からおこる浮腫、こむら返り等、また、打撲、かゆみ、捻挫等に用いられています。

日本にはセイヨウトチノキとよく似たトチノキが山地に自生しています。トチノキの種子をつき砕いてあく抜きをしてトチノキ団子を作って食されています。

本画は1825年ウインクラーによる作です。

